



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成25年04月01日 第607号「週刊五十嵐レポート」

孫の2乗の兵法

経営戦略の研究をしているところで過去の雑誌「プレジデント(2010.10.4号)」に目が留まりました。その中にソフトバンクの孫社長の話がありました。

60歳代で引退したらソフトバンクアカデミアの校長に専念し後継者を育てる。そこで後継者候補に伝えたいのが「孫の2乗の兵法」。

「孫の2乗の兵法」とは、孫子の兵法にランチェスターの法則を加え、孫社長の実践を重ねた25文字の経営指針。成功のための法則。

25文字は「道」「天」「地」「将」「法」「頂」「情」「略」「七」「闘」「一」「流」「攻」「守」「群」「智」「信」「仁」「勇」「敵」「風」「林」「火」「山」「海」。

後継者には暗記するのではなく、何かあるたびに「孫の2条の兵法」に立ち寄り、自分の実にもしてもらいたい。

最初の5文字「道」「天」「地」「将」「法」は孫子から。「道」は大義名分。企業理念。「天」は天の時。タイミング。「地」は地の利。「将」は將軍の器量。「法」は規律。

「七」は7割以上の勝算がない戦いをしないという意味。(無茶苦茶な挑戦をする人間だという人がいるが、そんなことはない)9割以上ある場合は遅い。

「一」はナンバーワン戦略。2番や3番で自分を褒めているようではいけない。グーグルやヤフーもマイクロソフトも圧倒的なナンバーワンになって初めてその本質的な存在感を長く享受できた。ボーダーフォンを買収したときは幹部の目が死んでいた。でも1度1番(増加率)になったら勝ち癖がついた。(ここはランチェスター法則。弱者はまず小規模1位、部分1位をとること)

「流」は時代の流れに逆らわず先を読んで手を打つこと。「風」「林」「火」「山」は孫子。「風」はすばやい行動。「林」は隠密行動。「火」は革命的にやる。「山」は事業領域。「情報産業」。ブレない。「海」は相手を包み込む。

先を読む訓練をする。将来から逆算。計画を立てる。実行する。結果が出る。その繰り返し。

ちょっと
気になる出来事

米ヤフーのCEOマリッサー・メイヤー氏は「在宅勤務制度」を廃止するというのでIT業界にも波紋を巻き起こしているようです。

彼女は、グーグルの副社長から2012年7月にヤフーのCEOに就任。ヤフーの再建のため、手法の一つとして「在宅勤務の廃止」を決定。

在宅勤務のメリットは、通勤の減少により社員の生産性が上がり、仕事に対する満足度も増え、退職率が下がる。

一方、仕事はほとんどせず自宅を隠れ蓑にし、全くオフィスに出ない社員が出てくる。

マリッサ・メイヤー氏は「優れた意思決定や洞察のなかには、廊下やカフェテリアでの会話、新しい人との出会い、あるいは即興的なチームミーティングで生まれたものがある」と。人と直接会い、コミュニケーションとコラボレーションの大切さを強調。

そして「在宅勤務」は生産性は高まるかもしれないが、イノベーションはないと。人と会わないと確かに「変化」「化学反応」は生まれませんね。



一口メモ
成功の秘訣

あすへの脱皮

幾多の企業が、自己の自由意志から一つたりとも製品を放棄することは断じてないと、自慢している。その結果はどうかというと、たいていの大企業では、その製品ライン中に何千という品目を抱え込むことになり、しかも、本当に売れているのは20品目足らずで、他の9,999という売れない品目の費用を賄うための収益を稼ぎ出さなければならなくなっている。(「創造する経営者」)

経営者の努力を集中するための第一の原則は、もはや生産的でなくなってしまった過去から脱皮することである。効果的な経営者は、彼ら自身および彼らの同僚たちの仕事の計画を定期的に検討し、そして、次のように問うてみる。「この事柄をわれわれが現在まだ実施していないという事実を前提として考えた場合、今からこの事柄を手がけることは、はたして意味があるだろうか」と。(「経営者の条件」)

ドラッカー経営名言集より

- 週刊五十嵐レポート 毎週月曜日発行 ● 月刊五十嵐レポートダイジェスト
- 町コンランチェスター経営戦略塾「会社成功塾」 毎週日曜日 午前10時～12時。
- 町コン・ランチェスター経営戦略セミナー 毎月東京開催

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 tigaras@attglobal.net

